



教職関係科目シラバス

科 目 名：家庭科教育法 I

英 語 表 記：Teaching Method in Family Living and Environment I

担 当 教 員：（^{きたむら}北村 ^{ゆか}由賀）

授 業 形 態：講義

単 位 数：2 単位

開講年度・学期：平成29年度・2年、3年集中

科目ナンバリング：KHHOM2201

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：中学校・高等学校家庭科の学習意義や目標・内容の概要を理解し、学習指導案の作成・実践・評価といった家庭科授業を行うための基礎的・基本的な力を身に付ける。

科目の主題：家庭科の意義・目標・内容、学習指導案の作成方法、授業づくりの工夫、家庭科における評価等、家庭科教師として必要な知識について講義する。また、学習指導案の作成、模擬授業といった演習活動を通して、実践的な力を身に付ける。

授業内容・授業計画：資料に基づいて講義・演習を行う。

テ ー マ	予定回数	概 要
家庭科教育の意義	1	家庭科をなぜ学ぶのか、子どもたちから見た家庭科、家庭科教育の意義等について理解する。
家庭科教育の目標と内容	1	学習指導要領における小・中・高等学校の家庭科の目標と内容について理解する。
題材構成と授業づくり	2	目標を明確にし、題材間のつながりを考慮した題材設定について理解する。
教材研究と授業づくり	2	実践的・体験的な学習活動や問題解決学習など多様な授業方法について理解する。
学習指導案の作成	2	教育実習に備えて学習指導案の作成方法について理解し、作成する。
学習指導案と評価	2	観点別評価、評価規準、具体的な評価方法や手順について演習を通して理解する。
模擬授業	2	作成した学習指導案に基づいて模擬授業を行い、事後検討会を通して、課題を把握する。
授業づくりの工夫	2	アクティブ・ラーニングの視点から、子どもが主体的に学ぶ力を育成するための授業について理解する。
まとめ	1	総合的にまとめを行う。

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評 価 方 法：授業への出席・参加度（50） 学習指導案の作成（20） 模擬授業（30）

評価観点1 家庭科の目標と内容について理解している

評価観点2 家庭科における評価の意義と方法について理解している

評価観点3 家庭科授業について理解している

教 材：「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」「高等学校学習指導要領解説 家庭編」

科 目 名：家庭科教育法Ⅱ

英 語 表 記：Teaching Method in Family Living and Environment Ⅱ

担 当 教 員：（ ）

授 業 形 態：講義

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・2年、3年集中

科目ナンバリング：KHHOM2202

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：家庭科の歴史を踏まえた上で、小中高等学校家庭科授業のあり方、教材についての考察、現代的課題への取り組みについて総合的に、家庭科への理解を深めることを目的とする。

科目の主題：家庭科の成立と現在までの歴史と学習指導要領を概説する。次に、現在の家庭科授業の組み立て方、教材のあり方について講義する。中学校「D 身近な消費生活と環境」の内容を中心に、小学校高等学校の内容とも連携させて扱う。家庭科の現代的課題として、消費者教育・環境教育について講義を行う

授業内容・授業計画：資料に基づいて講義を行う。

テ ー マ	予定回数	概 要
家庭科の歴史と学習指導要領	2	小・中・高等学校家庭科の成立から現在までの歴史を学ぶことにより、家庭科学習の意義と課題について考える。
家庭科の授業のあり方 ～授業作りと授業評価～	2	小・中・高等学校の家庭科授業のあり方を知り、家庭科の授業の組み立て方と授業後の評価について理解する。
家庭科の教材のあり方	4	家庭科における教材の定義について知り、さらに、教材のいくつかを体験的に知り、簡単な教材作成を試み、その評価を行う。
家庭科の内容 ～中学校「D 身近な消費生活と環境」を中心に～	2	家庭科における中学校「D 身近な消費生活と環境」の内容を中心に、小学校高等学校の内容とも連携させて知る。
家庭科の現代的課題 ～消費者教育～	2	家庭科における現代的課題の一つとして、消費者教育について知る。
家庭科の現代的課題 ～環境教育～	2	家庭科における現代的課題の一つとして、環境教育について知る。
まとめ	1	総合的にまとめを行う。

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評 価 方 法：集中講義のため出席を重視する。

評価観点1 家庭科の目標と内容について理解している

評価観点2 家庭科教育の歴史と課題について理解している

評価観点3 家庭科授業について理解している

教 材：中学校家庭科教科書は各自持参（開隆堂、東京書籍のどちらでも可）。その他講義資料は担当教員が用意する。パソコン・インターネットを使用し、提出物はメールを活用する。

科 目 名：家庭科教育法Ⅲ

英 語 表 記：Teaching Method in Home Economics Ⅲ

担 当 教 員：(吉井 美奈子)

授 業 形 態：講 義

単 位 数：2 単 位

開講年度・学期：平成29年度・2年、3年集中

科目ナンバリング：KHHOM2203

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：中学校「技術・家庭」の家庭分野教科書を総括的に理解し、中学校における家庭科の役割を認識することを主要な目的とする。また、高校と系統性を学ぶために、高校の内容についても触れながら、知識や理解を深める。

科目の主題：家庭生活のありようが多様化し価値観も変化する中で、「食生活、衣生活、住生活の見直しと改善」、「命の大切さ、幼児の遊び、子どもと家族、地域の人々とのふれあい、環境や資源を考えた暮らし」等、中学生にどのように教えたなら楽しい授業になるかを講義する。

授業内容・授業計画：中学校教科書を中心に講義を行うが、必要に応じてプリントを配布したり、動画を使用したりする。実習も取り入れる。高校の教科書や資料も使用するが、必要な場合はこちらで用意する。指導案や模擬授業、教材づくりなどを通して、具体的位に学ぶ。

テ ー マ	予定回数	概 要
オリエンテーション	1	シラバスについて説明。評価の方法など
家庭科とは、家庭科教育法とは	1	歴史、法規など
学習指導要領について	1	改訂のポイント、ねらい。小学校、高校家庭科との関連
変容する家族、家庭生活	1	家族とは、命の大切さ
中学生と食生活	1	健康な食生活
中学生の衣生活	1	衣類の洗濯、片づけなど、中学生らしい服装とは
住まいを見直そう	1	照明、整理整頓を考える
家族。幼児と遊び	1	幼児の遊び。おもちゃとおやつ
私と家族、家族と地域	1	家庭生活と地域との関わり
布を使って作品を製作	1	作品を提出する
学習指導案の作成①	1	学習指導案を作成する
学習指導案の作成②	1	学習指導案を提出する
学生による模擬授業①	1	学生による模擬授業を行う
学生による模擬授業②	1	学生による模擬授業を行う
まとめとレポートの作成	1	レポート提出

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評 価 方 法：講義への参加度、熱意及びレポートを総合的に評価します[学習指導案作成(20%) / 模擬授業(20%) / 授業への積極性(20%) / レポート(20%) / 衣生活の作品(20%)]。テストはしません。

評価観点1 家庭科の目標と内容について理解している

評価観点2 家庭科教育の歴史と課題について理解している

評価観点3 家庭科授業について理解している

教 材：教員が用意する。

科 目 名：家庭科教育法Ⅳ

英 語 表 記：Teaching Method in Family Living and Environment Ⅳ

担 当 教 員：(吉井 美奈子)

授 業 形 態：講義

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・2年、3年集中

科目ナンバリング：KHHOM2204

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：中学校「技術・家庭」、及び高校「家庭科」の内容を総合的に理解し、中学校・高等が買うにおける家庭科の役割を認識すること、授業展開を実践的に身に付けることを主要な目的とする。家庭科の内容は多岐にわたるため、主な内容を選択し、実際に授業をする際の注意点等を議論しながら進めていく。

科目の主題：既に学んでいる家庭科指導法Ⅰ～Ⅲの内容を振り返り、家庭科の授業を行うための注意点や授業の流れなどを考えつつ、授業の組み立て方などを講義する。その上で、模擬授業を行い、その内容について振り返りをする。

授業内容・授業計画：中学校「技術・家庭」の家庭分野教科書を用いる。模擬授業を通して実践的な力を養う。

テ ー マ	予定回数	概 要
教科書と中学校・高校の学習指導要領	2	学習指導要領に基づいた教科書内容と従来の教科書の内容等を講義する。
食生活領域の内容	2	食生活に関する内容を授業実践する場合の注意点等について講義する。
衣・住生活領域の内容	3	衣生活に関する内容を授業実践する場合の注意点等について講義する。
消費生活と環境の内容	3	消費生活に関する内容を授業実践する場合の注意点について講義する。
模擬授業	3	上記の内容について、各自が指導案を作成して模擬授業を行い学生を中心に話し合う。
まとめ	2	模擬授業での内容を踏まえてのまとめ、及び総合的なまとめを行う。

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評 価 方 法：集中講義のため授業中のレポート課題を重視する。

評価観点1 家庭科の目標と内容について理解している

評価観点2 家庭科教育の歴史と課題について理解している

評価観点3 家庭科授業について理解している

教 材：各自が家庭科指導法Ⅰ～Ⅲで使用した教科書等を持参する。初日に持参すること。何もない場合は、開隆堂または東京書籍の「高校家庭科・総合」を購入すること。

科目名：生徒指導論
英語表記：Theory of Guidance

担当教員：(松本 ^{マツモト} 訓枝 ^{クニエ})

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成29年度・2年集中

科目ナンバリング：KHSTU2201

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：生徒指導に関する基本的な原理や内容を習得し、生徒指導に関連した学校教育の現場におけるさまざまな取り組みの実態を理解する。

科目の主題：生徒指導の基本的な知識や考え方を習得する。また、今日の学校教育における生徒指導のあり方と実践をさまざまな側面から検討し、考察していく。そして、生徒指導の意義と役割および今後の課題、これからの生徒指導の展望についての理解を深める。

授業内容・授業計画：講義の形式を基本とするが、ディスカッションなどを随時取り入れながら進めていく。

テーマ	予定回数	概要
オリエンテーション	1	講義の概要・目的・進め方・成績評価の方法など
生徒指導とは何か？	3	生徒指導の意義と内容
		生徒指導の原理と方法
		児童・生徒理解と生徒指導
生徒指導のあり方と実践	1	生徒指導の体制・組織
	1	生徒指導と教育相談
	4	問題行動の理解と対応
		生徒指導と問題行動（Ⅰ）：不登校
		生徒指導と問題行動（Ⅱ）：いじめ
		生徒指導と問題行動（Ⅲ）：非行等の問題
	3	保護者・地域との連携による生徒指導
		生徒指導と教師（Ⅰ）：授業を中心に
		生徒指導と教師（Ⅱ）：学級・学校経営を中心に
生徒指導の課題と展望	2	生徒指導の課題と展望（Ⅰ）
		生徒指導の課題と展望（Ⅱ）

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：授業参加度、小レポート、問題行動に関するグループ発表によって総合的に評価する。

評価の観点1 生徒指導の理論を理解している

評価の観点2 生徒指導の方法を理解している

評価の観点3 生徒指導の今日的動向・課題を理解している

教材：教科書・文部科学省『生徒指導提要』教育図書、2011年。

参考書・小泉令三編著『よくわかる生徒指導・キャリア教育』ミネルヴァ書房、2010年。

久富善之・長谷川裕・山崎鎮親編『図説 教育の論点』旬報社、2010年。

その他・資料等を配布して進めていく。

備考：進度等に応じて、授業内容を変更する場合がある。

(担当者からの一言)：生徒指導の基本を理解し、具体的な問題行動からどのような生徒指導が求められているのかを、みなさんと深めていきたいです。

科 目 名：被服学概論

英 語 表 記：Clothing and Textile Science

担 当 教 員：(村田 ^{ムラタ} ^{ヒロコ} 浩子)

授 業 形 態：講義

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成30年度・2年、3年集中

科目ナンバリング：KHCCS2201

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：衣服は、人間にとって身体保護、身体衛生の維持において生活必需品であると同時に、審美性、社会性を伴う個性表現の手段である。近年は、手軽に安価な既製品が入手可能であり、あふれる衣料品の中で良質の衣服を選ぶ力が求められてくる。衣服の着用目的及び機能など、また年々市場に送り出される新しい素材について学修し、それらの力を身につけることを目的とする。

科目の主題：被服に対する正しい知識を身につけるため、被服材料学、被服衛生学、被服管理学を中心に解説する。

授業内容・授業計画：講義は基本的には教科書に沿って行い、必要に応じてプリントを配布する。

テ ー マ	予定回数	概 要
I. はじめに	2	被服学とは
II. 被服材料とその性能	3	天然繊維の構造と性質 化学繊維の構造とその性質 糸の構造と性質 布の構造と性質
III. 被服の機能	3	衣服の温熱的機能性 衣服の着用感覚 衣服の運動機能性
IV. 被服の管理	3	衣服の洗浄、漂白、仕上げ、保管、保存
V. 被服の機能とデザイン	3	衣服のバリアフリー 衣服におけるユニバーサルデザイン 子どもから高齢者用の衣服について
VI. まとめ	1	現代生活の衣生活における問題点

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評 価 方 法：レポート、授業参加度

教 材：印刷物を配布

科目名：被服構成学

英語表記：Clothing Construction

担当教員：(村田^{ムラタ} 浩子^{ヒロコ})

授業形態：実習

単位数：1単位

開講年度・学期：平成29年度・2年、3年集中

科目ナンバリング：KHCCC2201

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：被服の着用目的と機能を理解した上で、被服構成の知識や技術を教材の製作を通じて習得させることを目的とする。

科目の主題：人間は数千年も昔から、布を裁ち、縫合する裁縫という営みを続けてきた。その裁縫を科学的に体系化したものが被服構成学である。被服を構成するために必要な諸要因である被服設計、製作、材料、着装の課程を科学的に学修する。

授業内容・授業計画：

テーマ	予定回数	概要
I. 人体計測	2	人体の体型、構造、形状の把握
II. デザインの設定	2	目的、用途に応じたデザイン選択
III. パターンメイキング	1	決定したデザインの製図
IV. 裁断	1	裁断
V. 縫製・仕上げ	8	仮縫い、補正、本縫い、仕上げ
VI. 着装評価	1	完成した作品の着装評価

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：授業参加度、裁縫作品

教材：印刷物を配布

科目名：食物学 I

英語表記：Food Science I

担当教員：イチカワ ナオキ市川 直樹

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成29年度・全学年後期

科目ナンバリング：KHFFS1101

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：食べ物（栄養素）がどのように消化、吸収され、体の中で利用されているのかを理解する。

この科目は、居住環境学科の学生で、高等学校または中学校家庭科教諭を目指す学生およびQOLプロモーターを目指す学生を対象としている（詳細は履修概要を参照のこと）。

科目の主題：人体に必須の栄養素である糖質、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラルなどの消化、吸収、人体での利用のしくみを説明する。

授業内容・授業計画：教科書を用いて講義するほか、補助的にプリントを利用することもある。

テーマ	予定回数	概要
栄養素の「燃焼」	1	身体の活動に必要なエネルギーになる栄養素について。
エネルギーとATP	2	栄養素が「燃焼」し、エネルギーになるしくみについて。
水は大切な体の成分	1	体に含まれる水と無機イオンの恒常性について。
糖質の消化吸収と利用	2	糖質の種類とその消化、吸収のしくみ、燃焼のしくみ。
脂質の生理機能	2	脂質にはどのようなものがあるか、脂質の体の中での働き、水に溶けない脂質が血液をどのように輸送されているか、などについて。
脂質の消化吸収と利用	1	脂質の種類、消化、吸収のしくみ、脂肪組織に脂肪が貯蔵されるしくみ、脂肪の燃焼のしくみなど。
コレステロール	1	コレステロールの体の中での働きと、過剰摂取からくる障害のしくみについて。
タンパク質の消化吸収	1	タンパク質、アミノ酸の消化、吸収のしくみ。
ビタミンは代謝の潤滑剤	1	ビタミンにはどのようなものがあり、体の中でどのように利用されているか。
無機栄養素としてのミネラル	1	塩分、カルシウムの摂取、人体での利用について。
食物繊維	1	食物繊維とは何か、なぜ必要かなどについて。
アルコールの代謝	1	飲んだお酒はどこへゆく？ お酒の飲めるひとと飲めないひととはどこが違う？

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：主として定期試験で評価するが、レポート、出席率を考慮することもある。

教材：（教科書）田川邦夫 著「からだの働きからみる代謝の栄養学」タカラバイオ/丸善

科目名：食物学Ⅱ

英語表記：Food Science Ⅱ

担当教員：マトバ テルヨシ 的場 輝佳

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成29年度・全学年前期

科目ナンバリング：KHFFS1102

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：食べ物と生活について、生活者から見た食物の意義を理解する。この科目は、居住環境学科の学生で、高等学校または中学校家庭科教諭を目指す学生およびQOLプロモーターを目指す学生を対象としている（詳細は履修概要を参照のこと）。なお、食物学Ⅰと関連性の強い科目であるが、受講順序はⅠ、Ⅱのどちらからでもよい。

科目の主題：食資源、食べ物の機能（栄養性と嗜好性）、調理・加工、消費生活と食文化などを、食物科学の視点から概説する。

授業内容・授業計画：教科書を用いて講義するほか、補助的にプリントや映像を利用することもある。

テーマ	予定回数	概要
食物と生活環境	1	日本と世界の食資源と地球環境について。
食生活と健康	1	日本人の食生活と健康について。
食物の嗜好性	2	食物のおいしさ、色、香り、味、食感について。
植物性食材の特徴	1	穀類、野菜、果実の成分および調理・加工特性について。
動物性食材の特徴	1	畜肉、魚介類の成分および調理・加工特性について。
食材の健康増進作用	1	物に由来する健康増進機能成分と疾病予防について。
食品成分の品質変化	2	食品の調理、加工、保蔵の過程で起こる品質変化（酸化、着色、熟成など）について。
食物の安全性	2	食物の天然有害物質、微生物による食中毒、食品添加物の功罪、遺伝子組み換え作物および有機農作物などについて。
食物と消費者	2	食物に関する法律（食品衛生法、健康増進法、食品表示法、リサイクル関連法律など）と消費者行動について。
食文化	2	和食の歴史と魅力、日本料理と世界の料理（中国料理、韓国および東南アジア料理、欧州料理など）の特徴について。

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：主として定期試験で評価するが、レポート、出席率を考慮することもある。

教材： 的場輝佳 編著『食物科学概論 改訂版』朝倉書店

備考：（参考書）『食材図典』小学館、『日本食品成分表』女子栄養大出版部、
『日本食生活全集－聞き書き 各都道府県の食事』（全50巻）農山漁村文化協会

科目名：調理実習

英語表記：Food Preparation

担当教員：コジマ アキコ サイキ タカコ小島 明子・(佐伯 孝子)

授業形態：実習

単位数：2単位

開講年度・学期：平成29年度・2年集中

科目ナンバリング：KHFFP2201

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：多くの食品は、調理という過程を経てよりおいしく、消化吸収し易くなり、われわれの健康保持、増進に役立つ食物となる。そこで調理を行う行動の中で、科学的に調理を感じ取り健康的な食生活を送ることを目的とする。

科目の主題：素材の見分け方・扱い方、種々の調理法、配膳方法について、日本料理・西洋料理・中国料理別に調理の基礎から実習する。

授業内容・授業計画：教科書に沿って実習を行う

テーマ	予定回数	概要
実習の概要説明	2	調理実習心得・衛生管理・実習準備
調理の基礎	2	計量・洗浄の方法、包丁の種類と使い方、種々の切り方、鍋を使っての炊飯、出汁の引き方、出し巻き卵の作り方、米粉の使い方
日本料理の基礎	4	日本料理の特徴・種類・盛り付けかた・配膳の基本・テーブルマナー、魚の三枚おろし、煮物、蒸し料理の種類と方法、卵の調理性、南蛮漬
西洋料理の基礎	6	西洋料理の特徴・種類・盛り付けかた・配膳の基本・テーブルマナー、スープの種類、プイヨンの取り方、ソースの作り方、サラダ・ドレッシングの種類と作り方、ゼラチンの調理
中国料理の基礎	4	中華料理の特徴・種類・盛り付けかた・配膳の基本・テーブルマナー、湯の取り方、揚げ物調理法、涼拌、寒天の扱い方、魚料理
日本料理	2	すし各種、うしお汁
中国料理	2	桂むきの練習、肉の種類と部位による使い分け、酢豚、炒飯
日本料理	2	もち米、いりこだしのとり方、味噌の種類、天ぷらのコツ、焼きものの種類と方法、松花堂弁当
中国料理	2	点心の種類、発酵、包子の作り方、粥の炊き方
西洋料理	2	ビュッフェ形式の盛り付けかた・テーブルマナー、ポタージュスープ、煮込み料理、スポンジケーキ、マヨネーズの作り
日本料理	2	正月料理、串の刺し方

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：授業参加・授業態度、実習時技術到達度、レポート、実技テストなど総合的に評価する。

教材：「新版 現代食生活のためのクッキング」現代食生活研究会

備考：

受講生へのコメント：家庭科教諭をめざす学生対象の内容

科目名：住居学概論

英語表記：Introduction to Housing Study

担当教員：多治見 左近・永村 一雄・森 一彦

授業形態：演習

単位数：2単位

開講年度・学期：平成29年度・1年・1年集中（後期）

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：この講義は、居住環境学科以外の学生で、高等学校または中学校家庭科教諭を目指す学生のために開講されるものである。教育職員免許法施行規則に定められる内容のうち、主として「住居学」の内容を学ぶためのものである。

科目の主題：住居学全般について演習を含めて教授する。気候・風土との関わりから住居の成り立ちを解説し、住宅の材料と構造が住まいの形態に与える影響について論じる。また、住まいの快適性と安全性を図るための方策について述べる。さらに、日本および世界の住居の発展過程を解説し、現在の到達点と当面する諸問題について論じる。加えて、現代住居の多様な側面、例えば住宅事情、住まい方、集住形態とコミュニティ、居住環境などを取り上げて解説し、未来の居住空間について展望する。製図に関しては、表示記号や木造住宅などの図面について学び、演習を行う。

授業内容・授業計画：

テーマ	予定回数	概要
住居学原論	1	住居史、風土と住居、住様式
日本の住居	1	住宅の種類と特質、住宅の間取り、住宅地の形成
現代住居をめぐる諸問題	1	住宅問題、住宅事情、住宅政策、居住形態
住宅の構造	1	木構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨構造等の特性
住宅の材料	1	土、石、木、コンクリート、金属等の建築材料の特性
住宅の環境（火災を含む）	1	音・光・熱・空気等の環境要素と居住環境へのかかわり、建築防火の基礎
住宅設計法	3	住宅の計画法と構法
設計製図演習	3	住宅の平面計画と設計
住宅の見学	3	住宅の見学と調査

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：出席とレポート

教材：資料を配布する。

科目名：保育学

英語表記：Childcare Studies

担当教員：(堀^{ホリ} 智晴^{トモハル})

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成29年度・2年、3年集中

科目ナンバリング：KHNC2201

当学科・コース学生以外の受講：可

授業の到達目標：保育についての理論を学び、保育施設での見学実習を行う。

科目の主題：保育とは何か、保育の歴史、保育の現行制度、保育実践の意義と研究方法について講義するとともに保育実践現場において見学実習を行う。また、インクルーシブ保育についてその目的、内容、方法について学ぶ。

授業内容・授業計画：講義方式と演習形式を併用する。保育所においてインクルーシブ保育について見学する。

テーマ	予定回	概要
オリエンテーション	1	本講義の目的と予定について述べる。
保育とは	1	保育とは何か、保育の基本的性格について講義する。
保育の思想と歴史	2	保育の思想と歴史について講義する。
保育園と幼稚園	1	保育園、幼稚園、こども園について講義する。
保育所保育指針	1	保育所保育指針の保育内容について解説する。
幼稚園、こども園保育教育要領	1	幼稚園とこども園の保育内容について解説する。
保育実践研究の方法	1	保育実践研究の方法について講義する。
インクルーシブ保育	1	インクルーシブ保育の目的、内容、方法について講義する。
具体的に保育実践の研究方法を学ぶ	2	保育実践のDVDを見、記録を読み、具体例に即して実践研究の方法について議論する。
実践現場で保育実践に触れ、保育の意義について学ぶ	3	保育実践現場で保育実践にふれる機会を持ち、保育の意義について考える。
まとめ	1	本講義のまとめを行う。

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：授業参加度（50%）、議論への参加（20%）、最終レポート（30%）により評価する。

教材：堀 智晴著『保育実践研究の方法』川島書店。

適宜、実践を記録したDVD、資料を活用する。

備考：

受講生へのコメント：保育実践にふれる機会を持つために保育関連科目でのボランティア体験をすすめたい。

科目名：学校栄養教育実習

英語表記：Practice in Teaching (Nutrition)

担当教員：上田 由喜子・柏木 敦（文学部教員）・島田 希（文学部教員）

授業形態：実習

単位数：1単位

開講年度・学期：平成29年度・4年集中

科目ナンバリング：KKPRA4403

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：教育実習を通して教職への意義をさらに高めることを目的とする。

科目の主題：大学の教職科目で履修した教育理論を踏まえて、教育実践を実地に体験することを通して教職に関する実践的指導力の基礎を身につける。

授業内容・授業計画：小学校あるいは中学校での実習。
各教育実習校の計画にそって行う。

事前・事後学習の内容：毎回の授業で指示する。

評価方法：教育実習校での評価を参考にして教育実習担当者会議で評価する。

教材：大阪市立大学編「教育実習の手引き」

備考：教育実習を希望する者は、前年度の教育実習ガイダンスに必ず出席し、教育実習校に対する依頼手続きを進めておかなければならない。栄養教育実習と同時に履修する教職実習事前事後指導のシラバスは文学部シラバスを閲覧すること。

受講生へのコメント：実習では、学級担任教諭の指導の下、授業法ならびに児童生徒への声かけ等について実地に学ぶこと。学校教育全体の中に位置づけられる“食に関する指導”について主体的に学修すること。

科 目 名：教職実践演習（栄養教諭）

英 語 表 記：Practical Seminar on Teaching (Nutritiopl)

担 当 教 員：小島 明子・上田 由喜子・柏木 敦（文学部教員）他

授 業 形 態：演習

単 位 数：2単位

開講年度・学期：平成29年度・4年集中

当学科・コース学生以外の受講：なし

授業の到達目標：専門的な知識・技能を基に、教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を持って、学校給食経営管理を行いつつ、教科学習における食に関する指導、個別栄養カウンセリング、生徒指導等の職務を實踐できる資質能力が身に付いているかを確認する。

科目の主題：教職課程の個々の科目の履修および教職に関するさまざまな経験を振り返る。次に、専門的な知識・技能を基に、教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を持って、発育発達期における栄養管理に基づき学校給食経営管理を行いつつ、教科学習における食に関する指導、個別栄養カウンセリング、生徒指導等の職務を實踐できる資質能力が身に付いているかについて確認する。さらに、教職キャリアを通しての今後の課題を考える。

授業内容・授業計画：主として、演習形式とする。

テーマ	予定回数	概 要
オリエンテーション	2	本科目の意義、目標、進め方、グループ開き (堀内・添田・辻野・小島・上田)
栄養アドバイザーとしての 栄養教育	2	教職に求められる資質能力について ブレインストーミングの説明と演習 (添田・上田)
学習履歴の振り返りと教職 に求められる資質能力	2	教職課程の個々の科目の履修（教職課程履修カルテ利用） と教職に関するさまざまな経験を振り返り、それをブレイン ストーミングで検討した教職に求められる資質能力と比 較する演習を行う (堀内・小島)
栄養教諭に求められる資質 能力について	2	栄養学、栄養教育論、栄養カウンセリングに関する学術的 知識習得状況、教科学習における食に関する指導能力につ いて自己評価を行い、今後の課題についてディスカッショ ンする (小島・上田)
学級経営、生徒理解、社会 性・対人関係能力育成	2	ゲストスピーカーによる講義、講義に基づくディスカッ ション (上田)
子どもに対する責任	2	ゲストスピーカー講義、講義に基づくディスカッション (辻野・上田)
自己評価・今後の課題 (演習)	2	教職に求められる資質能力について自己評価、今後の課題 について (添田・小島)
教職の意義	1	レポート作成 (添田・小島)

評 価 方 法：授業中に課す小レポート50%、最終レポート30%、教職課程履修カルテ20%

教職実践演習運営委員会は毎年度初めに教職実践演習の評価に関する申し合わせについて協議し、学
年末において、上記の資料をもとに教職実践演習の評価を行う

教 材：配布プリント等による（参考書・参考資料等は授業中に指示する）

科目名：教育実習事前事後指導（栄養教諭）

英語表記：Guidance in Teaching Practice (Nutrition)

担当教員：カシワギ アツシ 柏木 敦（文学部教員）・シマダ ノゾミ 島田 希（文学部教員）・ウエダ ユキコ 上田 由喜子 他

授業形態：講義

単位数：1単位

開講年度・学期：平成29年度・4年集中

科目ナンバリング：KHPRA4404

当学科・コース学生以外の受講：なし

授業の到達目標：(1)教育実習に必要な具体的事項を知り、教育実習のための準備を行うことができる。
(2)教育実習に関連する基本的な問題を理解して、教育実習に向けた心構えができる。
(3)学生の視点からではなく、「教師」の視点から学校教育を見ることができるようになる。
(4)教育実習の体験を意義づけ、教職に対する理解を深める。

科目の主題：教育実習の事前と事後において、実習の準備と振り返りに関する指導を行う。実習の一般的な心構えと教育現場の教育活動に必要とされる知識・態度について理解を深める。実習後には教育実習の反省や考察を少人数による討論によって行う。

授業内容・授業計画：教育実習の前後に、以下の内容について行う。

テーマ	予定回数	概要
教育実習の心構えについて	1	実習に臨む姿勢と実習上の注意について
全教育活動で行う食育について	1	学習指導要領における食育の理解と教材研究
研究討議	2	「食」に関する児童の実態と諸問題について各グループで分析・考察
指導案の検討	1	教材・教具等の準備、指導案の検討
教育実習後の経験交流と反省	2	「栄養教諭としての課題」を踏まえ、児童の観察と理解に関する討論などを通じて、教員としての責任についての各自の自覚を深める

事前・事後学習の内容：

事前学習：これまでに教職課程等で学んだ事柄を振り返り、教育実習で取り組む課題を考える。

事後学習：各自の教育実習を振り返り、また他の履修者との経験交流を踏まえながら今後の課題を展望する。

評価方法：毎回の講義についてのレポートによる。本科目は、教育実習の評価と連動しているので、教育実習の評価と分割して評価しない。

評価観点1 教育実習に必要な具体的事項を理解している。

評価観点2 学生の視点ではなく、教師の視点から学校教育を理解している。

評価観点3 教育実習の体験を意義づけ、教職をより深く理解している。

教材：大阪市立大学編『教育実習の手引き』

受講生へのコメント：教育実習を行う年次に必ず出席して、教職と教育実習への意識を高めるように心がけること。



QOL プロモーター養成関係科目シラバス

科目名：QOLプロモーション

英語表記：QOLプロモーション

担当教員：所道彦・西川禎一・清水由香・上田博之・岩間伸之・堀口正

授業形態：講義

単位数：2単位

開講年度・学期：平成29年度・1年通年

科目ナンバリング：HQLEC1101

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：QOL（Quality of Life：生活の質）の概念を学ぶ。

科目の主題：自然科学、社会科学の知見を紹介しつつQOLの概念について学ぶ。生活の質を構成する多様な要素について理解し、生活全体を捉える視点の重要性について学ぶ。また、生活の質を向上させるための取り組みの歴史を説明するとともに、地域におけるQOL向上の取り組みの進め方、これからのQOLプロモーションのあり方について検討する。

授業内容・授業計画：オムニバス形式による講義とディスカッション・グループワークを組み合わせで行う。

テーマ	回数	概要
オリエンテーション	1	生活科学とQOLの概念
生活問題の多面性	3	生活問題について健康・居住・人間福祉など多面的に捉えることの意義について説明する。
QOLプロモーションの展開	4	日本における生活の質を向上するためのこれまでの取り組みについて学ぶ
専門職チームアプローチとQOL	2	専門職の協働によるQOL向上の取り組みの意義と課題について学ぶ
QOLプロモーションによる地域づくり	4	地域住民のニーズ・アセスメントから計画までのプロセスと専門職の役割について学ぶ
QOLプロモーションの課題	1	まとめ

事前・事後学習の内容：適宜、授業内で指示する。

評価方法：出席状況・授業中のディスカッションへの参加態度・レポート（授業での課題）などにより総合的に判断する。

教材：適宜、資料を配布する

備考：

目 名：QOLプロモーション演習 I

英語表記：QOL Promotion Fieldwork Practice I

担当教員：所 トコロ 道彦・上田 ミチヒコ 博之・西川 ウエダ 禎一・早見 ヒロユキ 直美 ニシカワ ヨシカズ ハヤミ ナオミ

授業形態：演習

単位数：1単位

開講年度・学期：平成29年度・1年集中

科目ナンバリング：HQPRA1101

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：本演習を通じて生活問題を体験し、受講生が「生活者の視点」を体得する糸口とする。

科目の主題：高齢者・障害者・児童の各領域で活動する地域団体や施設に赴き、生活問題の実態を地域の生活者と共有する中で、問題点の把握とQOL向上のために指向すべき目的を検討する。

授業内容・授業計画：学外演習

テーマ	予定回数	概要
高齢者のQOL問題	1	高齢者介護の現状について実習する。
障害者のQOL問題	1	障害者の生活の現状について実習する。
児童のQOL問題	1	児童を取り巻く現状について実習する。
地域のQOL問題	1	地域の生活問題について実習する。
QOLニーズの把握	1	ボトムアップによるQOLニーズの把握を実習する。

事前・事後学習の内容：

評価方法：出席状況・レポート評価

教材：プリントを配布する。

備考：地域のQOL問題では、神戸大学食資源センターでの農場実習や、和歌山大学・大阪府立大学・近畿大学・摂南大学などと協働の「紀の国大学」としての援農活動などにも取り組みます。

受講生へのコメント：「QOL プロモーション」及び「QOL プロモーション演習 I」を同時に履修すること。

科 目 名：QOLプロモーション演習Ⅱ

英 語 表 記：QOL Promotion Fieldwork Practice Ⅱ

担当教員：所 ^{トコロ} 道彦・上田 ^{ミチヒコ} 博之・西川 ^{ウエダ} 禎一・早見 ^{ヒロユキ} 直美 ^{ニシカワ} ^{ヨシカズ} ^{ハヤミ} ^{ナオミ}

授 業 形 態：演 習

単 位 数：1 単位

開講年度・学期：平成29年度・2年集中

科目ナンバリング：HQPRA2201

当学科・コース学生以外の受講：不可

授業の到達目標：把握した生活問題やQOLニーズに対し、どのようにして改善策を検討して立案、実施するか、そのプロセスを体験する。

科目の主題：QOLプロモーション演習。で明らかにされた生活問題に対し、改善策を立案、実行する専門職のもとで演習する。

授業内容・授業計画：学外演習

テ ー マ	予定回数	概 要
高齢者のQOL改善	1	高齢者介護について立案された改善策を実行する。
障害者のQOL改善	1	障害者の生活について立案された改善策を実行する。
児童のQOL改善	1	児童を取り巻く現状について立案された改善策を実行する。
地域のQOL改善	1	地域の生活問題について立案された改善策を実行する。
改善策の評価	1	立案された改善策の評価について検討する。

事前・事後学習の内容：

評 価 方 法：出席状況・レポート評価

教 材：プリントを配布する。

備 考：地域のQOL問題では、神戸大学食資源センターでの農場実習や、和歌山大学・大阪府立大学・近畿大学・摂南大学などと協働の「紀の国大学」としての援農活動などにも取り組みます。

受講生へのコメント：「QOLプロモーション演習Ⅱ」の履修は「QOLプロモーション演習Ⅰ」を修得していること。

※平成27年度以前入学者は、「QOLプロモーションⅡ」及び「QOL プロモーション演習Ⅱ」を履修すること。

科目名：居住福祉工学概論

英語表記：Introduction to Technology of Living Welfare

担当教員：^{ウエダ}上田 ^{ヒロユキ}博之

授業形態：講義

単位数：2 時間数：22.5

開講年度・学期：平成29年度・1年集中

科目ナンバリング：HQEEN1101

当学科・コース学生以外の受講：食品栄養科学科QOL希望者及び人間福祉学科QOL希望者のみ可

授業の到達目標：我が国は高齢化が進み、大きな社会問題となりつつある。このような高齢化は、居住環境を考える場合にも重要視されはじめている。本講義はQOL関連科目として提供されるため、高齢社会における高齢者・障害者の居住問題と居住環境の課題について学習し、ユニバーサルデザインやバリアフリー設計の考え方など高齢者の居住問題の解決について、その基礎的知識を得ることを目的とする。

科目の主題：本講義は、高齢者・障害者の居住に関する理念・考え方を重視する。福祉の知識や高齢者・障害者の身体機能、助成制度など幅広い内容の習得が必要となる。

本講義では、まず福祉の概念、居住福祉工学の考え方、高齢者の身体機能について解説する。

これらの内容を理解した上で、高齢者施設や障害者施設、住宅などの問題について考える。

授業内容・授業計画：講義内容をプリントにして配布する。講義内容は既に読んでいることを前提として講義する。

講義は、プリントの解説を中心に行う。数回のレポート・演習問題を課し、レポートを提出を求める。提出されたレポートに対しては、適宜コメントする。

テーマ	回数	概要	構成要素
居住福祉工学の概念 ／ 居住福祉工学とは何か	3	居住福祉工学の概念規定と役割・必要性 福祉と建築の関係 住宅内事故と高齢者	居住福祉工学の概念規定・背景・方向性・必要性 高齢化の状況・福祉の概念・建築と福祉の関係 住宅内事故・事故の要因・バリアフリー住宅と事故
高齢者の身体機能	3	加齢と身体機能低	加齢と筋力低下・加齢と生理機能低下・加齢と疾患
福祉住環境の問題	6	映像にみる現在の高齢者住宅・施設、障害者しせつの問題	バリアフリーデザイン・ユニバーサルデザイン 介護保険・福祉住宅政策・福祉住環境整備の必要性和ニーズ
福祉先進国の方法	3	福祉国家のまちづくり 介護保険実施国の住宅改修	デンマーク・スウェーデンの福祉施設・住居の状況 オランダ・ドイツの住宅改修

事前・事後指導の内容：

評価方法：レポートの評価点（80%）＋講義への参画状況（20%）により行う。

教材：必要な資料（テキスト）を配布する。スライド・OHPなどを使用する。